追　悼

八十島義之助さんのご冥福を祈る

東京大学名誉教授
㈳日本都市計画学会名誉会員　　高　山　英　華

八十島さんが本当に忽然としてゆかれてしまい驚いています。

しかし，聞くところによると本当に何の苦しみもなく大往生だったと知ってほっとしています。

これも生前の行いがよかったことによるものでしょう。

さて，八十島さんは土木出身で私より10歳若かったと思いますが，いろいろの場所で実に親しくしていました。

とくに東京大学工学部に都市工学科を作る時などはいろいろと一緒に努力したものです。

また，私達が財団法人日本地域開発センターを造ってからは，その研究委員会の委員長として永く努力して頂いて居たものです。

八十島さんはまじめな人柄で皆から親しまれていました。しかし時にはかなりのウィットを発揮する人でした。何時か南米のブラジルでのコカパバーナの海岸のヌードのビデオなどを撮ってきて，東京大学の工学部の会合で発表され皆を喜ばせたこともありました。

御専門は土木工学の鉄道関係でしたが，その構築技術にとじこもることなく，都市計画，地方計画，国土計画といういわゆる地域計画の大家でありました。

そして，国土審議会の委員などをつとめられ，とくに，いわゆる首都移転問題ではそのまとめ役として，政府の審議会をまとめて行かれたものでした。八十島さんは，広い視野と穏厚な人柄によっていろいろの審議会や委員会をまとめることがうまかった人と思います。

エジプトの昔からシビル・エンジニヤーということばは，人類の文明，文化を創りつづけていた言葉でしたが，わが国では明治の頃に土木と訳したのが定着して了った感があります。八十島さん達はこれにあきたらず何とかもっとよい名前にかえようと努力したようですが，未だうまくいっていません。同じ頃，建築もはじめは造家と訳していましたが，伊東忠太博士などによって今では芸術文化を含んだ建築となって定着しています。

八十島さんは亦スポーツマンで明るい性格の方でした。私も小さいときからスポーツを楽しんで参りました。八十島さんはアイスホッケーの選手として東京大学で活躍され，私もサッカーの選手として頑張って居たものです。それで東京大学の運動部の部長などを努めた関係で最近でもときどきお会いしていたものでした。

八十島さんは今年の私の米寿の会の発起人として名をつらねて居られ，その会の５月15日の直前に亡くなられたので強いショックを受けました。

どうぞ安らかにお眠り下さい。

故　八十島義之助　氏

本会の名誉会員八十島義之助氏には平成10年５月９日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人　日本都市計画学会

八十島義之助先生のご業績

東京工業大学教授　渡辺貴介

本学会名誉会員八十島義之助先生は，平成10年5月9日，ご逝去になられました。穏やかな土曜日の午餐の後，ご自宅の一階で読書をしながらの安らかなご永眠であったそうです。享年78歳。帝京平成大学学長の他，多くの要職にお就きのままのご逝去でありました。

先生は，大正8年東京にお生まれになり，昭和16年東京大学工学部土木工学科をご卒業，直ちに同学科の常勤講師となり，また陸軍兵器学校幹部候補生隊に技術候補生軍曹として入隊，技術中尉，技術大尉を経て終戦により招集解除され，東京大学に復帰されました。昭和22年に土木工学科鉄道工学講座助教授，昭和30年工学博士，同年土木工学第一講座教授に就任され，以後40年余にわたって学界の第一人者として研究と教育にあたってこられました。昭和55年東京大学ご退官後は東京大学名誉教授，埼玉大学教授工学部長，昭和60年からは帝京技術科学大学（現帝京平成大学）の学長になられ，現職のままの急逝となりました。

吊橋軌道の走行安定性など，鉄道工学の学者として始まった先生のご研究は，その後，交通工学・交通計画・土木計画学・都市計画・国土計画と大きく広がっていき，ご研究の広がり深まりとともに，その過程で多くの学者・プランナー・技術者・行政官・実務者を育て，また都市工学や景観工学，観光計画学など，当時としては新しい冒険的な学問分野の開拓にも尽力してこられました。東京大学の都市工学科の創設に際しては，併任教授として初期の学生たちの指導にあたられました。先生はご自身優れた学者であるとともに，実に数多くの人材を育て，そして能力発揮の機会を与えてこられた名伯楽でもありました。まさに，戦後の急速な経済成長，重工業化，都市化，モータリゼーション等によって日本社会，日本の都市・地域・国土が激変してきた時代に，それぞれの時期の様々な課題と対応の取り組みに先生は懸命に応えてこられ，また時代も八十島先生という人物を必要としてきたといえましょう。

先生は，学界においては，土木工学の重鎮として，昭和51年に世界交通学会理事，昭和56年に第69代土木学会会長，さらに昭和57年には日本学術会議副会長の重職を務められました。日本都市計画学会では，昭和26年10月，わずか170人程で学会が発足した当初からの会員で，大隈講堂の脇で撮影された創設記念の写真の中に，32歳の東京大学助教授八十島先生のお姿が残されています。先生は創設期のわが学会を支えてこられ，昭和60年に顧問，平成3年に名誉会員に推挙され，学会の重鎮として後進の指導に当ってこられました。「都市計画204号」での「高齢社会の都市交通のあり方」のインタビューが，残念ながら日本都市計画学会での先生の最後のご登場となりました。

実社会に関わるお仕事では，先生はほとんどあらゆる省庁の審議会等で数多くの要職を歴任されました。ごく近年のものだけでも，国土審議会会長，航空審議会委員長，首都機能移転問題に関する懇談会座長，国会等移転調査会基本部会長，さらには，横浜市みなとみらい21，千葉市幕張新都心，埼玉新都心等の計画策定の委員長も務められました。生涯にわたって関わられたものを，すべて丹念に数え上げることはほとんど不可能です。こうした審議会や委員会，とくに多省庁間の調整を必要とする会議での先生の議事進行には定評がありました。すべてはその根底に，先生の温厚なお人柄，深い学識とご見識，そして先生に寄せられる深い信頼があったためと回顧されます。

先生の数々のご業績に対しては，多くの栄誉が与えられました。交通文化賞，土木学会田中賞，紫綬褒章，勲二等旭日重光章などです。昭和62年1月には，先生は宮中において天皇陛下に講書始の儀のご進講もなさっておられます。

幼少から鉄道を愛してこられた先生は，逝去されるまで鉄道友の会の会長でもありました。また，カメラの好きな先生，健啖家の先生でありました。“ヤソさん”とみんなに敬愛され，他者を悪しざまにおっしゃることなど決してなく，いつも温厚なお顔と語り口で多くの人を励まし，勇気を与えて下さった先生でした。

大雄院文渓義徳居士となられた八十島義之助先生に，謹んで衷心より哀悼の意を表します。合掌。